

～陸上競技を支えるプロフェッショナルを徹底紹介！～

陸上の大会はたくさんの「縁の下の力持ち」によって支えられています。今回は間近に迫った東京レガシーハーフマラソンでボランティアリーダーをされる赤澤俊祐さんに話を聞きました。今年10月15日(日)に、パリ五輪の日本代表が決まる「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)」と同日開催となる東京レガシーハーフマラソン。選手のみなさんが現状打破する舞台を、赤澤さんをはじめボランティアの方々はどう支えているのでしょうか？ 文・M高史

©フオート・キシモト

陸上競技ナビ



マラソン大会を支える！  
ボランティアの活動をご紹介します！

No.23 ボランティア



赤澤 俊祐さん

東京マラソン2014で初めてボランティアに参加して以降、数々の大会を支えている。2018年に「ボランティアリーダー」として登録。東京マラソン2019では「コース管理リーダー」を務める。東京五輪・パラリンピックでは、大磯のセーリング選手村でボランティアの活動支援リーダー、パラリンピックマラソンのコース管理リーダーを担当した。2022年に「ボランティアリーダーサポート」として登録している。マラソン以外にも、7月の世界水泳、農業や教育ボランティアにも参加している。

ボランティアを始めたきっかけ

赤澤俊祐さんがボランティア活動に取り組むようになったのは、9年前、2014年の東京マラソンが始まりでした。「中学時代は柔道部、高校時代は陸上部で短距離をやっていました。友人が陸上をやっている、東京マラソンに出たいとずっと言っていたんです。高校を卒業してからは、私は走ることにまったく縁がなかったのですが、何か走ることに関われないかなと探していたら、ボランティアの存在を知りました。それがボランティアに取り組む始めたきっかけです」

それ以来、ボランティア仲間からの誘いもあって、赤澤さんもランニングを始めたそうです。ラン歴は5年ほどで、ハーフマラソンの大会にも時々出場しています。「ボランティアをしているとランナーからいろいろな質問を受けますが、走ることで言葉の意味を実感することはあります」。自分

自身が大会に参加することで、ランナーの目線に立った上で支えることができるのだとか。

ボランティアの年齢層については、「50代、60代が多いですが、20代や大学生もいます。男女比は半々くらい。親子くらい歳が離れていて、息子のようにかわいがっていただくこともあります(笑)」。

ボランティアのスケジュール

実際に、マラソン大会のボランティアをする場合、どのような流れで進んでいくのでしょうか。

「例えば、東京マラソンの場合、ボランティアに必要な物を受け取って当日を迎えるかたちでした。ボランティアリーダーになると、ボランティアの説明会よりも前にミーティングがあり、当日までにアイデアを出し合い、下見などを行います。下見では、ボランティアの立ち位置がどこになるのか、ボランティ

アの休憩場所、コンビニがあるかななどを実際に目で見て確認します。屋根のある場所を探すと、雨が降った場合を想定した準備もあります。大会当日は朝が早いことが多いので、本日から前日は穏やかに過ごしたいのですが、前日もランナー受付のボランティアを入れていますね(笑)」

リーダーをサポートし、大会スタッフと現場をつなぐ役割を担う「リーダーサポート」も務めています。

「リーダーサポートの場合、関わる期間はもう少し長いです。東京マラソンではボランティアリーダーの説明会が2月中なのですが、リーダーサポートになると12月頃から準備が始まりますし、大会後も振り返りがあります。リーダーサポートは人前で話をする場面も多く、説明会ではリーダーのみなさんが不安にならないようにいろいろなことを想定して話をしています。それは普段の仕事にも生きていますね」

東京レガシーハーフマラソンでの役割

東京レガシーハーフマラソンでのボランティアの役割は、大きく3つに分かれるそうです。

「1つ目がコース管理。2つ目がコース給水。3つ目がスタート・フィニッシュです。私は前回も今回も国立競技場が担当。前は場内の誘導でした。スタート前のトイレや給水所への誘導、フィニッシュ後の手荷物返却場所や退場の案内などが役割になります」レガシーハーフマラソンでは約1万5000人のランナーに対して、2700人のボランティアがサポートしています。

「スタートして、ランナーが国立競技場の横を過ぎていくと、ホッとします。当日、初めて会うボランティアもたくさんいて、みなさんが手探りの状況で準備を始めて、やっとランナーを迎え入れることができます。だから、エリートランナーが走り始めたところでやっと始まったなと思、全体のスタートが流れ始めたところで、無事にレースが進んでいるのが実感できますね」。ボランティア経験豊富な赤澤さんならではの視点です。

ボランティアのやりがい

赤澤さんに、やりがいを感じる瞬間について聞きました。「ランナーに元気を与えてと思って参加していたら、むしろもらっていることが多いですよ。コース上に立っていても『ありがとう!』と言われたり、『いつもあなたたちのお陰よ』と声をかけてもらえたりします」。

さらに、ランナーからだけでなく一緒に活動するボランティアからも元気もらえるそうで、「ボランティアリーダーになると、ボランティアが生き生きと活躍している姿を見るとうれしくなりますね!」。



▲出場者をさまざまな面でサポートするのがボランティアの「お仕事」。

そんな自身の経験を、もっと多くの人にも味わってもらいたい。そんな思いから、「ボランティアに少しでも興味があればぜひやってみてほしいです」と赤澤さんは話します。

「私もちょっとしたきっかけで始めて、活動内容がおもしろかったですし、尊敬できる先輩もいます。初めてボランティアをした時のリーダーだった方が、特に印象に残っていますね。その方は明るくて元気で、初めてという不安が一気に吹き飛ばすような感じでした。いまだに『東京マラソンのお母さん』と呼んでいます(笑)。ボランティアをずっと続けていくと、いろんなメンバーに出会い、そこからボランティアの輪が広がりました」メンバーそれぞれが、さまざまな経験をしている人たち。交流の中から、さまざまな

学びを得ることができる。これも、ボランティアの醍醐味なのでしょう。

「最初は不安に思っても、いざランナーが走ってくると盛り上がりおもしろいです。自分が出ている大会ってこんなに多くの人に関わっていて、こんな仕組みになっているんだと、ある意味で社会勉強になりますね。(ボランティアへの)入口はなんでもいいと思います。普段生活をしていたら知り合えないような人と知り合って、いろんなことを聞いて勉強になりますし、経験になりますよね」

大会に出場するみなさんも、応援するみなさんも、トップ選手たちの活躍はもちろん、ボランティアの活動ぶりにも注目してみたいかがでしょうか? そして、気になる人は、実際にボランティアに参加してみると、新しい扉が開けるかもしれないですね!

JAAF大会 Info

マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)

チケット発売中!!



2023年10月15日(日)、東京・国立競技場発着コースで「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)」を開催いたします! 本大会は「パリ2024オリンピック競技大会」マラソン日本代表選手選考競技会と第107回日本陸上競技選手権大会を兼ねて開催され、男女マラソンの「パリオリンピック日本代表選手」を決める「日本一決定戦」です。

<開催日>  
10月15日(日)

<開催場所>  
国立競技場発着

▼特設サイトはこちら  
<https://www.mgc42195.jp/>



第17回U18 / 第54回U16 陸上競技大会

<開催日>  
2023年10月20日(金)～22日(日)  
<開催場所>  
愛媛・愛媛県総合運動公園陸上競技場

▼大会ページはこちら  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1766/>



日本グランプリシリーズ  
Sports MIDDLE DISTANCE CIRCUIT in TOKYO 2023

10月20日(金)～21日(土)  
<開催場所>  
東京・駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

▼大会ページはこちら  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1746/>

